

日本女性放射線腫瘍医の会助成事業 報告書

癌研有明病院 放射線治療部
中島 直美

この度日本女性放射線腫瘍医の会(JAWRO)学会助成事業にご採択いただき、2018年11月

11日から11月14日にブリュッセルで行われた ESTRO School Accelerated Partial Breast Irradiation (APBI) に参加いたしましたのでご報告いたします。

8つのパート、35のレクチャーから成る4日間の school で、参加者約40名(放射線腫瘍医、技師、物理士)、講師10名(放射線腫瘍医、診断医、外科医、内科医、病理医、物理士)の50名で、朝から夕方まで非常に密度の濃い講義を共にさせていただきました。

参加費は600ユーロ(約7万円)で、JASTRO 共催の日本での ESTRO school よりも1日多く、少し高めの設定でしたが、それに見合う素晴らしい内容でした。

ヨーロッパからの参加が多く日本人は私一人でしたが、女性の参加者が多く皆で声を掛け合い和やかな雰囲気の中で講義を受けることができました。

これらの講義は後に PDF として参加者に配布されましたが、1290 ページというボリュームで帰国後の自施設での APBI 導入準備に非常に役立ちました。

講義の内容の一部は本年の JAWRO 総会でご紹介させていただきます。

APBI は日本ではまだ普及していませんが、ヨーロッパ・米国を中心に早期乳癌患者の乳房部分切除術後の放射線治療方法の一つとして選択されることが増えており、周囲の参加者に尋ねますと、すでに APBI を開始している施設が brush up を目的に、あるいは 3DCRT や VMAT での APBI はすでに導入しており、小線源での APBI の開始のために勉強に来ている、といった方が多く私にとってはその事実も衝撃的でした。APBI の主たるメリットは部分的な照射による心臓、皮膚、正常乳腺、肺などのリスク臓器の線量低減と治療期間の短縮による医療従事者および患者の負担の軽減ですが、3DCRT, IMRT/VMAT, マルチカテーテル/バルーンを用いた小線源治療など様々な手法が存在し、至適照射技術は画一ではなく、患者や腫瘍の解剖学的な特徴により異なっていることを学びました。

自施設での安全かつ有効な APBI 導入のため、APBI の適応や至適技術、ターゲットの設定について ESTRO School で学ぶことは大変有用であり、帰国後に放射線治療部および乳腺センターのメンバーを対象にレクチャーを行い円滑な導入準備を進めることができました。

最後に今回 ESTRO school 参加助成をしていただき会長の内田伸恵先生、会員支援企画委

員長の 大村素子先生をはじめ、JAWRO の皆様に心より感謝申し上げます。

